資料２－１

厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

高等学校新学習指導要領対応

人生100年時代の社会保障を考える
「主体的・対話的で深い学び」実現のための高校生向け社会保障教育指導者用映像資料
（案）

モデル授業(公的年金保険①)を活用した授業例

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

本映像の目的と活用に当たっての留意事項

本映像資料は、高校生の社会保障に対する理解の促進を図るため、高等学校における社会保障教育の実践の参考として、高等学校の教職員向けに作成したものです。映像資料中の授業映像は、厚生労働省が開発したモデル授業を活用した公民科の授業を一例として撮影したものですので、実際にモデル授業をご活用いただく場合には、生徒の興味・関心等に応じて工夫いただくことが可能です。

なお、モデル授業や授業映像において、特定のライフコースや指導者の個人的な考えに基づく考え方の例等を示している箇所がありますが、これはあくまで具体的な議論を進めるための材料であり、この特定のライフコースや考え方のみを推奨するものではありません。授業でご活用いただく際も、特定のライフコースや指導者の考え方のみを推奨するものではない旨を分かりやすく補足するなど、生徒を取り巻く環境や将来に対する考え方等の多様性に配慮をお願いします。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

高等学校学習指導要領

学習指導要領　科目「公共」	学習指導要領解説　科目「公共」の内容とその取扱い
第１　公共 ２　内容 B　自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち （ｳ）　職業選択，雇用と労働問題，財政及び租税の役割，**少子高齢社会における社会保障の充実・安定化**，市場経済の機能と限界，金融の働き，経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に，公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること，市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。	少子高齢社会における社会保障の充実・安定化については，**疾病や失業，加齢など様々な原因により発生する経済的な不安やリスクを取り除くなどして生活の安定を図り，人間としての生活を保障する社会保障制度の意義や役割を理解**できるようにするとともに，我が国の社会保障制度の現状と課題などを，**医療，介護，年金などの保険制度において見られる諸課題を通して理解**できるようにする。 なお，「『財政及び租税の役割，少子高齢社会における社会保障の充実・安定化』については関連させて取り扱い，国際比較の観点から，我が国の財政の現状や少子高齢社会など，現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと」（内容の取扱い）が必要であり，**社会保障に関わる受益と負担の均衡や世代間の調和のとれた制度の在り方**について触れることが大切である。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

授業の目標

この授業では大きく2つの目標を掲げています。

- 人生には様々なリスクが潜んでいること、社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。
- 各自が必要と考える社会保障制度について考察し、自らの意見を、論拠をもって表現する。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

授業における問い

持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきか。

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1時間目
1.社会保障について考えてみよう

学習活動：ワーク1～2

副教材：P3～9

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

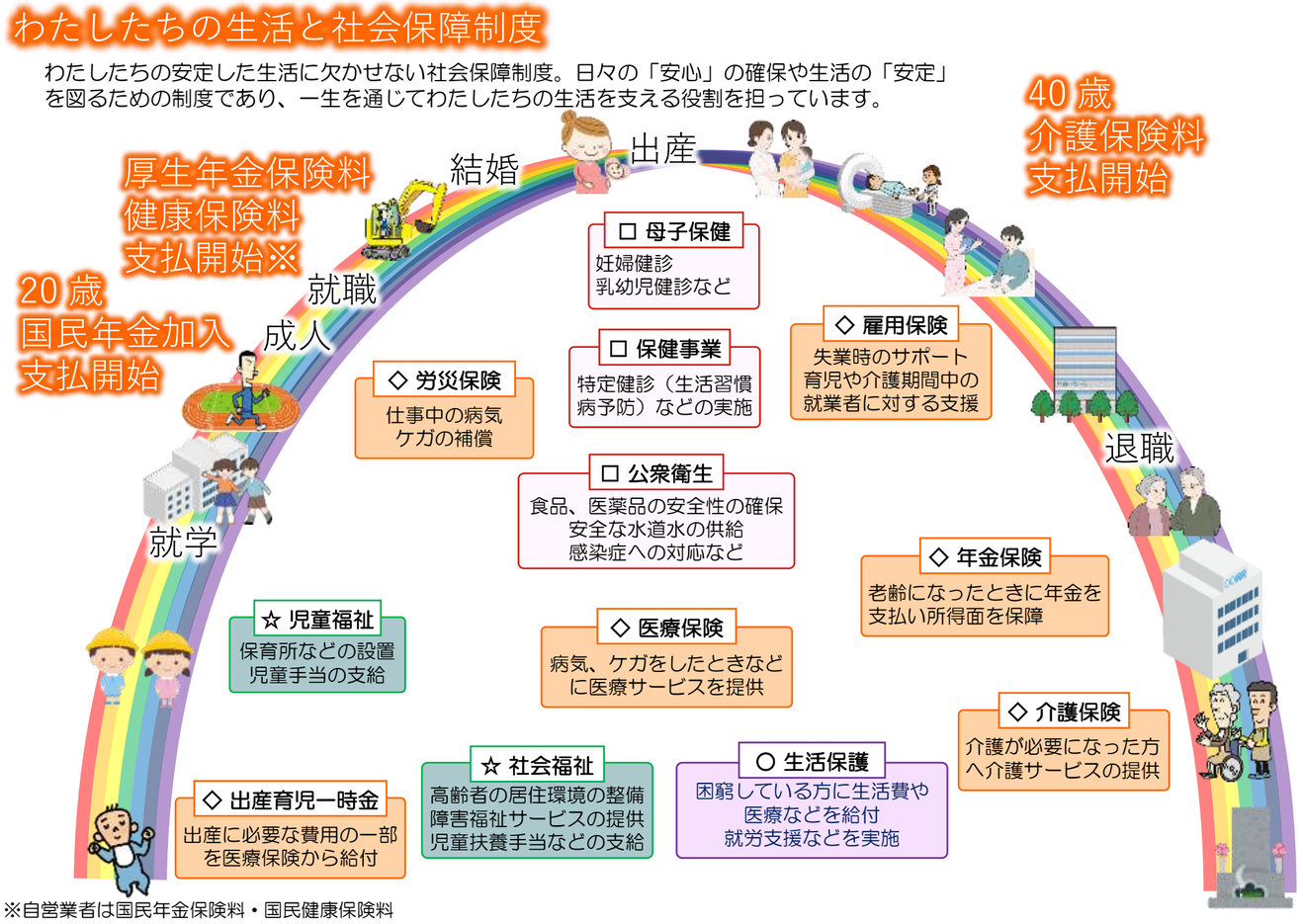
1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【ワーク1】

✓ これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。

【副教材　P3】

✓ 人生の中で起こりうる困難な出来事とそれに対応する社会保障制度の全体像を説明する。



【ワーク1に対するヒント】

- 副教材から想定できることについて確認する。
- 卒業後の直近の人生だけでなく、高齢期も含めて考えられるよう、アドバイスする。

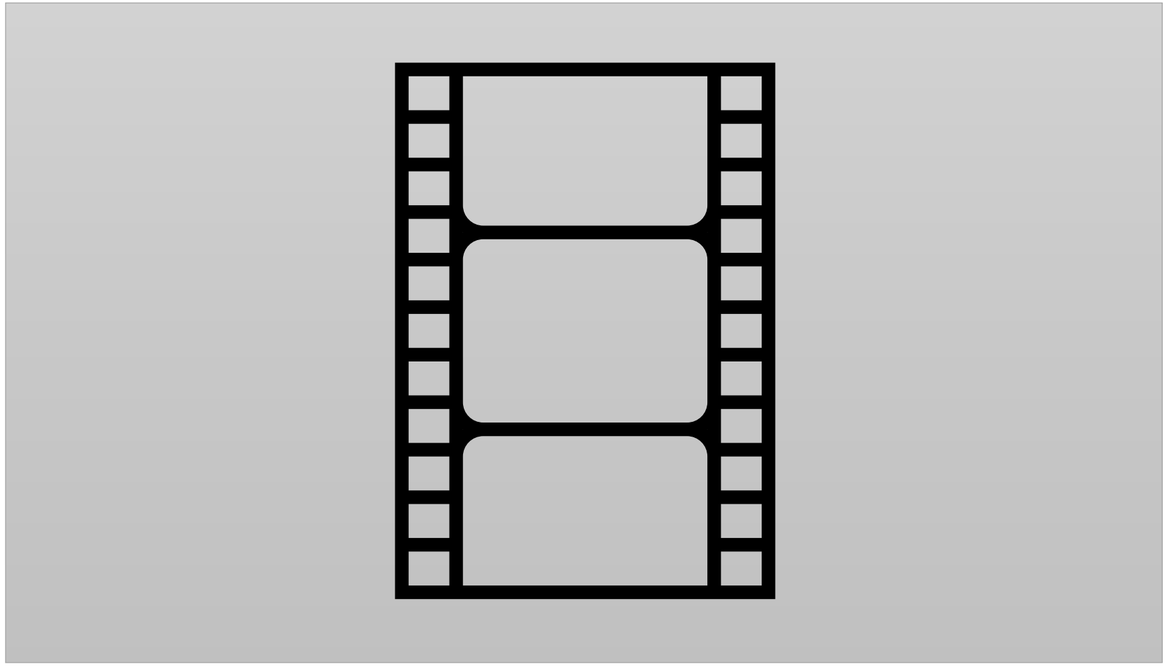
【特に注目してほしいポイント】

- 私たちの安定した生活に欠かせない社会保障制度。日々の「安心」の確保や生活の「安定」を図るための制度であり、一生を通じて私たちの生活を支える役割を担っている。
- 日本の社会保障制度には、社会保険（◇医療・年金・介護等）に加え、社会福祉（☆児童福祉、障害福祉サービス等）、公的扶助（○生活保護等）、公衆衛生（□感染症対策・保健事業等）がある。

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【ワーク1】

✓ これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるか、書いてみよう。



【生徒からの意見（例）】

- 失業や病気、事故

【ワーク1に対するヒント】

- このほか、困難な出来事として、「病気や怪我」、「長生きによる所得減少」、「自分が介護を必要とする状態になること」、「失業」、「貧困」を予め提示し、自分にとって困ると思う順番を付けさせるなどといった方法により、望んでいなくても誰もにこのような出来事が起こりうることを確認させてもよい。

- その際、「長生きによる所得減少」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず、経済的に困る可能性があることを補足する。

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【ワーク2】

✓ 予期せぬ困難を支えるのが社会保障制度です。社会保障制度のうち、社会保険には医療・年金・介護保険などがあります。もし、社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるか考えてみよう。

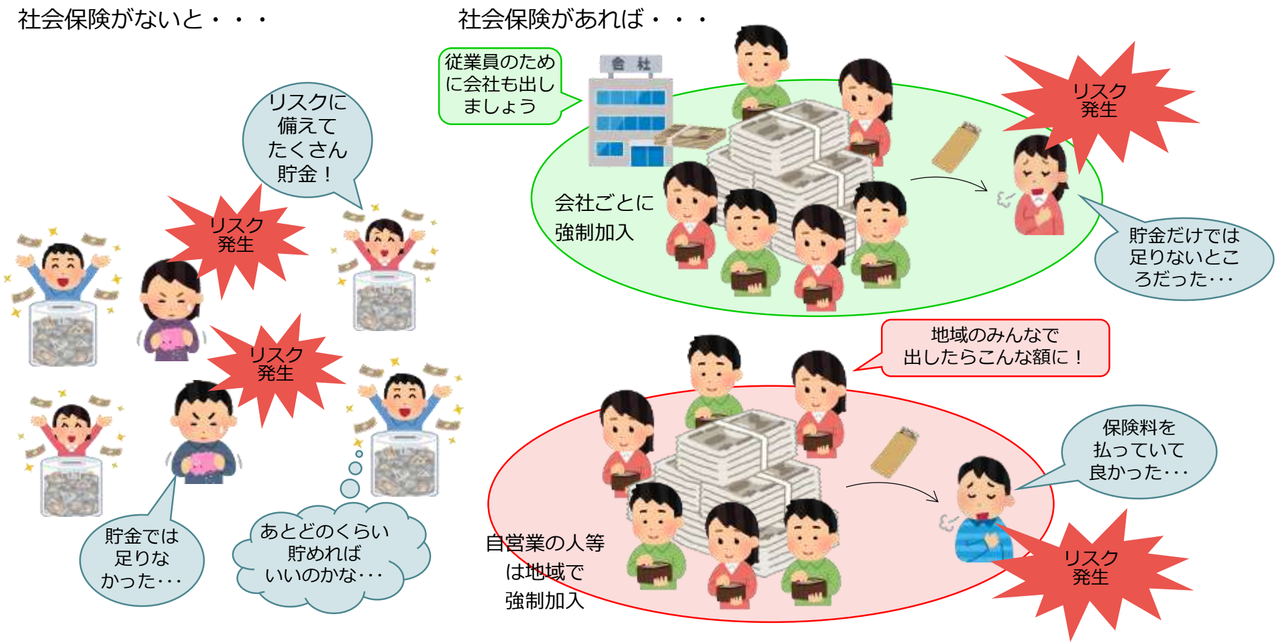
【副教材 P4～5】

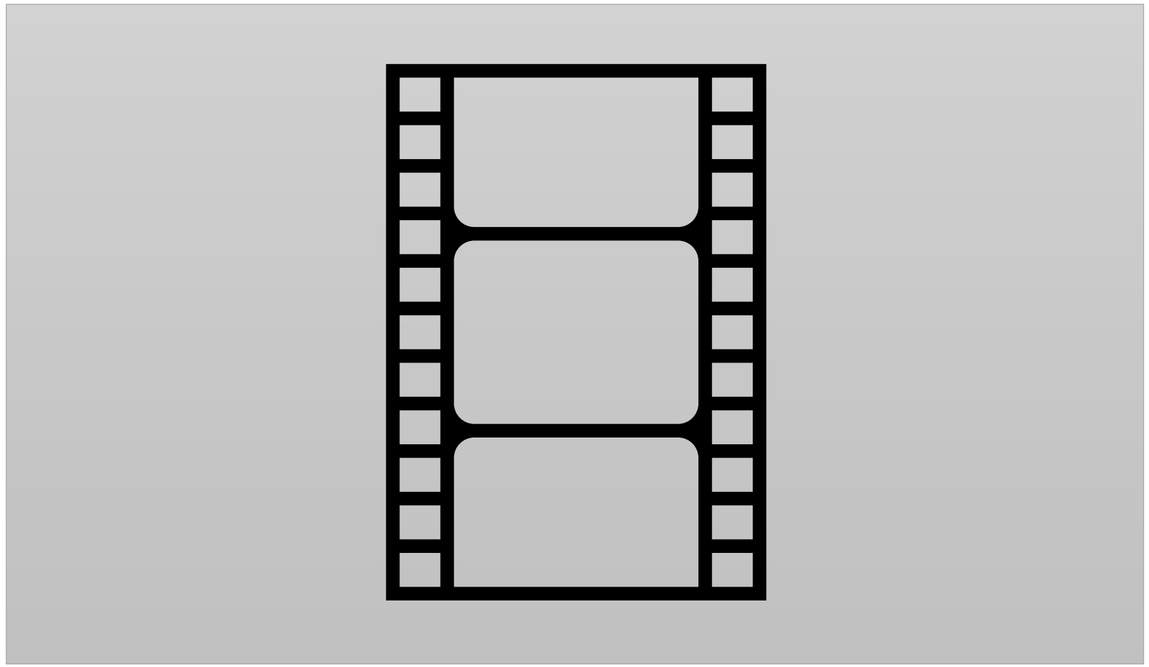
✓ 社会保険の仕組みと意義を説明する。

社会保険とは？

「保険」とは、誰もが人生のなかで遭遇する可能性のある様々なリスク（病気・ケガ・退職や失業、長生きによる収入減少など。）に備えて、人々が集まって集団（**保険集団**）をつくり、あらかじめお金（**保険料**）を出し合って、リスクに遭遇した人に必要なお金やサービスを支給する仕組み

⇒社会全体でこのような「保険」の仕組みを作るのが「**社会保険**」





【ワーク2に対するヒント】

- 例えば、医療保険がなかったら、年金保険がなかったら、私たちの生活はどうなるだろう。

1.社会保障について考えてみよう
(1)わたしたちの生活と社会保障制度

【説明のポイント】

✓ 日本の社会保険制度を確認する。

日本の社会保険制度

・「医療保険」は、病気やケガなどで通院や入院をした、出産したときなどに給付され、国民全員が加入しています（国民皆保険）。

・「年金保険」は、リスクに対して所得面で保障する制度で、長生きにより所得が減少した（老齢年金）、障害を負った（障害年金）、お父さんやお母さんなど家計を支えていた方が亡くなった（遺族年金）ときなどに受給できます（国民皆保険）。

・「介護保険」は、高齢者の介護サービスを提供しています。

これらの社会保険制度は、

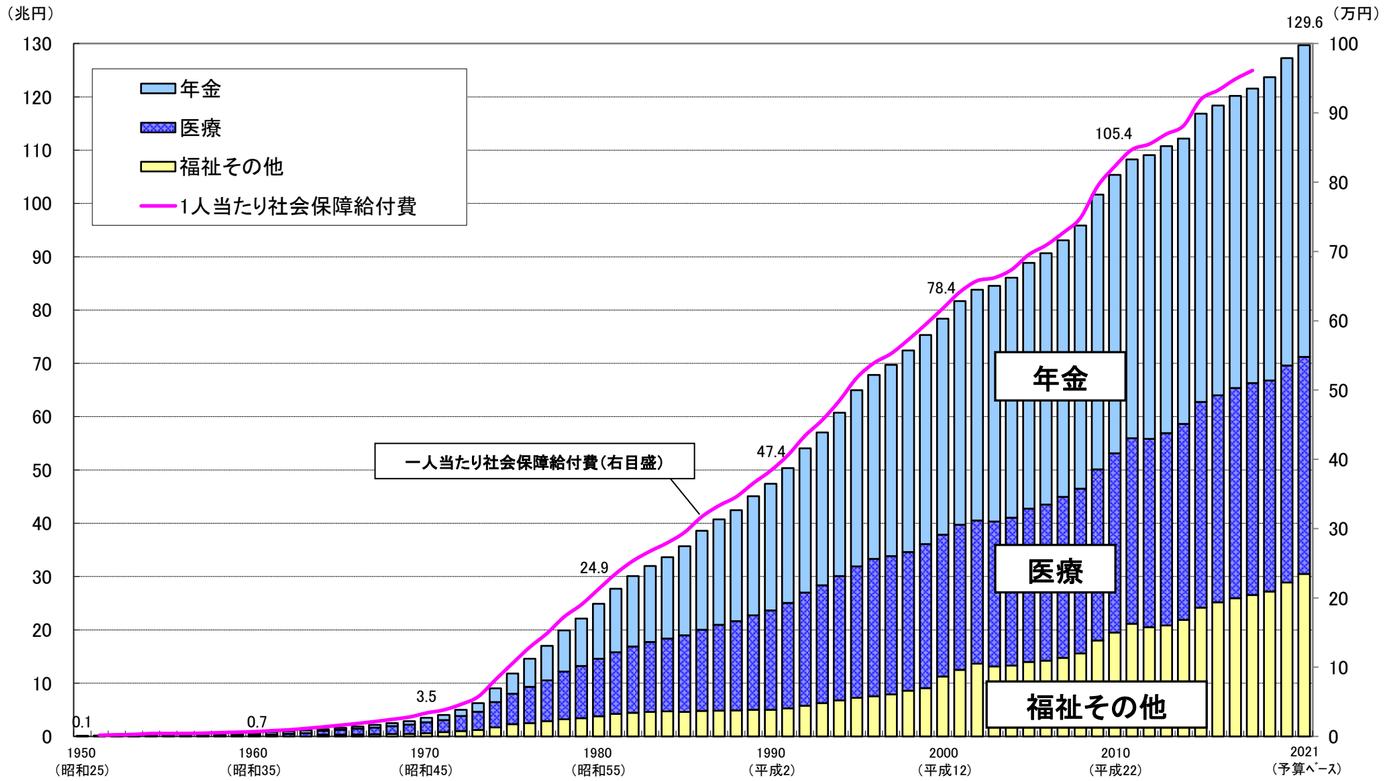
皆さんが支払う**保険料（収入に応じて負担）**と**税金**で運営され、社会全体で支え合う仕組みになっています。

1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

【副教材　P6】

✓ 国民一人当たりの社会保障制度利用にかかる費用は年々増え続けていることを説明する。

社会保障給付費の推移

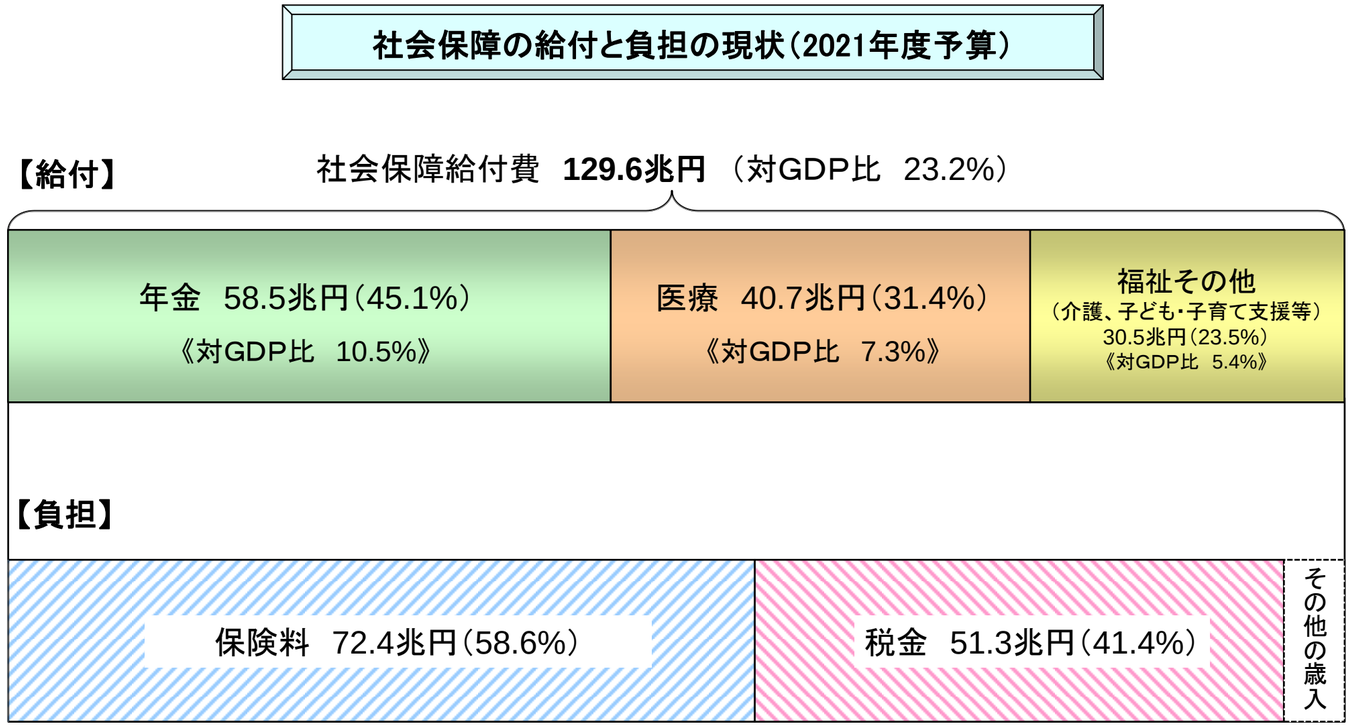


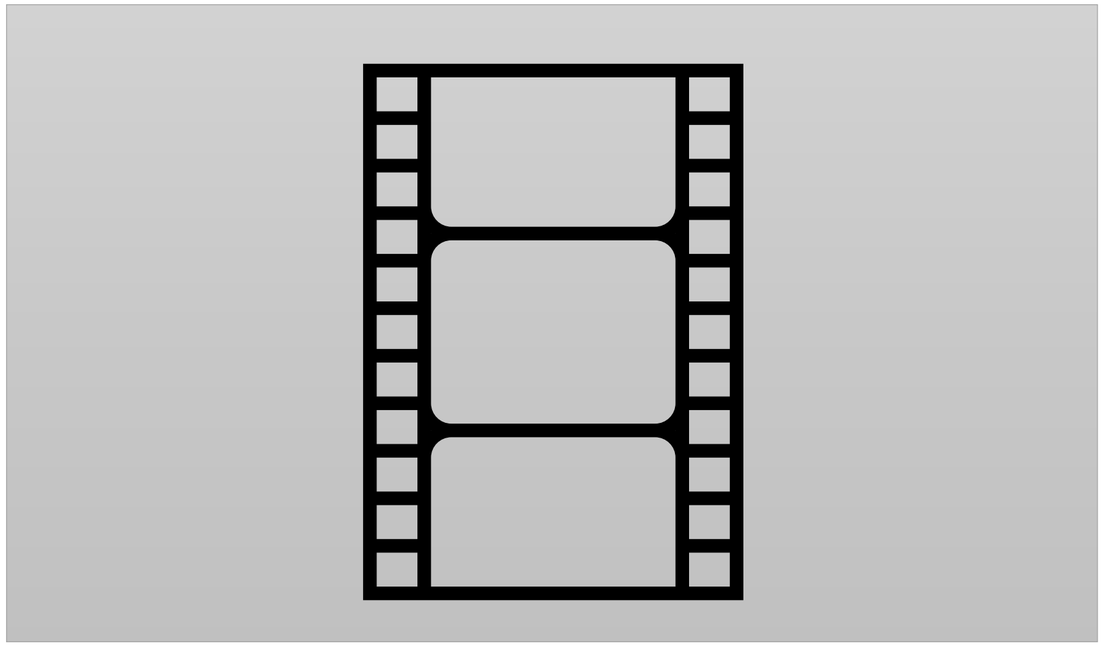
資料：国立社会保障・人口問題研究所「平成30年度社会保障費用統計」、2019～2021年度（予算ベース）は厚生労働省推計、
2021年度の国民所得額は「令和3年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度（令和3年1月18日閣議決定）」
（注）図中の数値は、1950,1960,1970,1980,1990,2000及び2010並びに2021年度（予算ベース）の社会保障給付費（兆円）である。

1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

【副教材　P7】

✓ 社会保障給付費の約6割は保険料で賄っているが、税金も使っている。





【問いかけ】

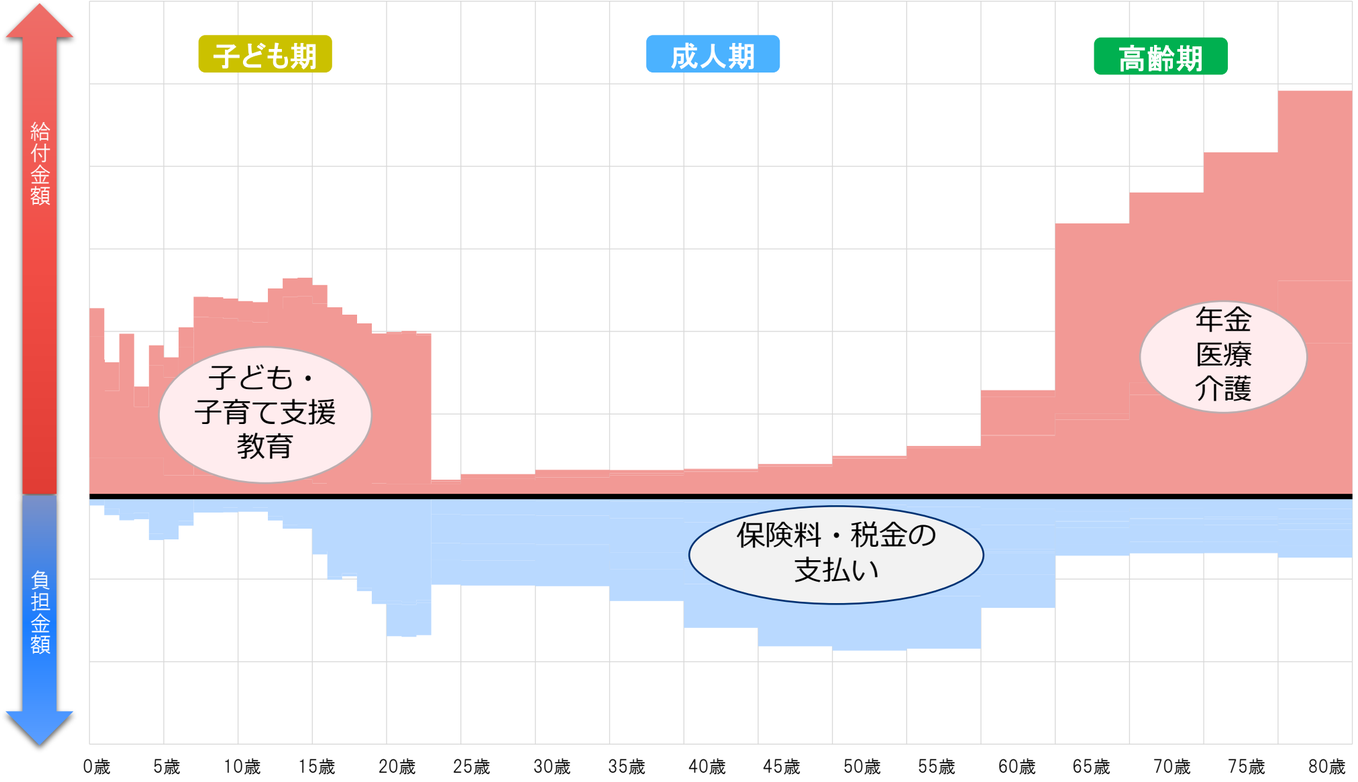
- 買い物をしたときの消費税も社会保障給付費の一部として使われていることに気づいてもらう。

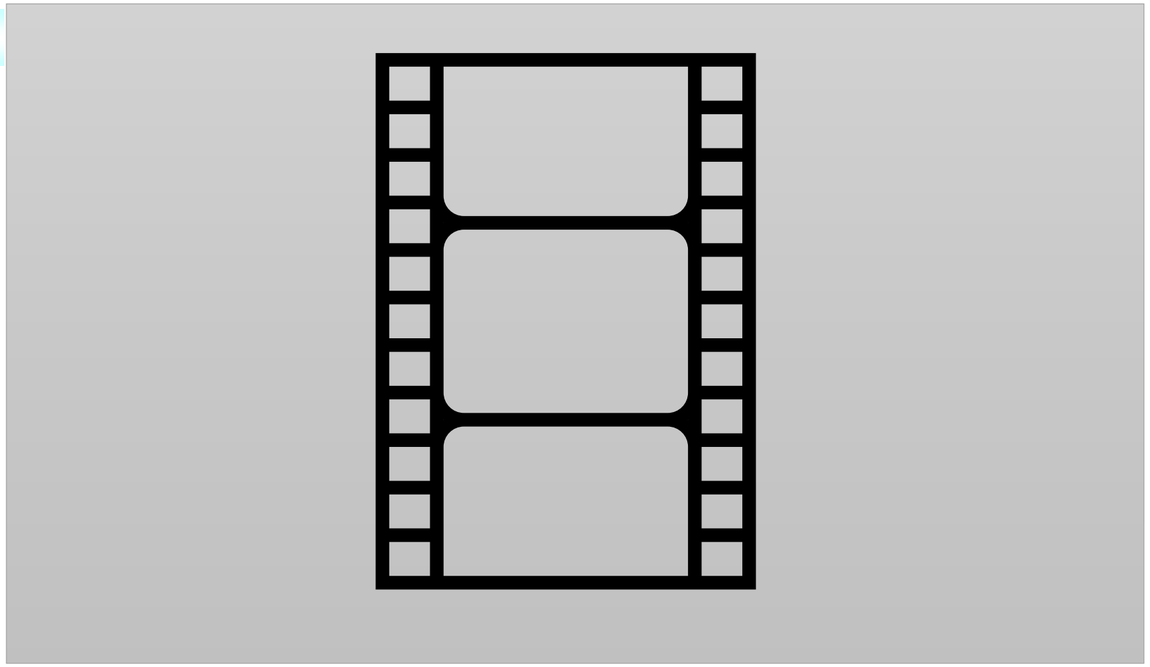
1.社会保障について考えてみよう
(2)社会保障を支える財政

【副教材　P8】

✓ 一生の中で主に給付を受ける時期と、逆に主に負担する時期がある。

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ





- 現在、給付は高齢期中心、負担は成人期中心というこれまでの社会保障の構造を見直し、切れ目なく全ての世代を対象とするとともに、全ての世代が能力に応じて負担し、公平に支え合う「全世代型社会保障」への改革が行われていることを補足してもよい。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

1時間目
2.公的年金保険について考えてみよう

クイズ１、２

ワーク３～5

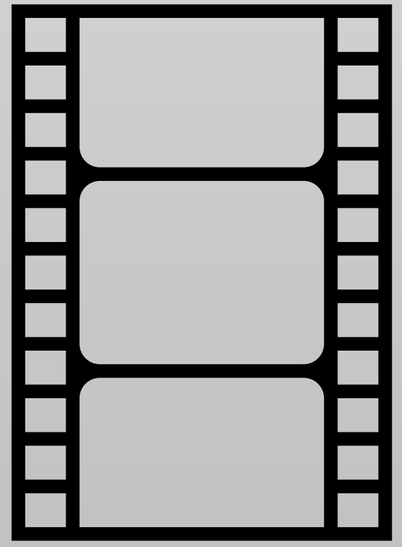
副教材：P11～13

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

2.公的年金保険について考えてみよう
(1)公的年金保険の意義

【クイズ1】

✓ 1問ずつ、クラス全体に問いかけ、解説する。3問目については、なぜその答えが正しいのか確認する。



【クイズ1】

１問目：年金保険料を払うのは何歳からでしょうか。

①国民全員　②原則20歳から　③原則60歳から

2問目：年金の保険料を払っていた人が、老齢年金をもらえるのはいつからでしょうか。

①原則20歳から　②原則65歳から　③原則40歳から

3問目：あなたは結婚して子どもがいるとします。もし、事故などによって30代であなたが亡くなった場合、あなたが払った年金保険料は払い損となるのでしょうか。

①払い損となる　②必ずしも払い損にはならない

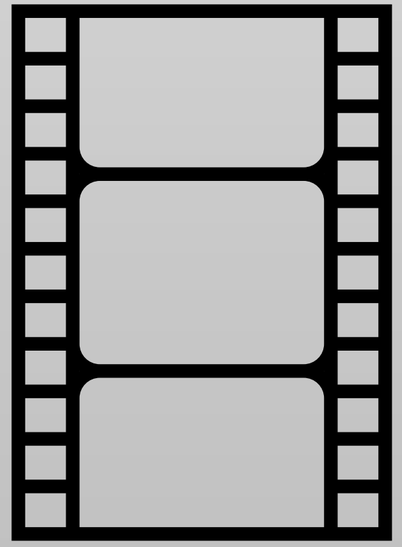
【クイズ1 3問目に対するヒント】

- 老齢年金のほかに、障害を負ったときに受け取る「障害年金」、お父さんやお母さんなど家計を支えていた方が亡くなり、収入が得られなくなったときに受け取る「遺族年金」がある。「遺族年金」については、仮に被保険者が早く亡くなったとしても、家族が年金を受け取ることができる。

2.公的年金保険について考えてみよう
(1)公的年金保険の意義

【ワーク3】

✓ ワーク3の四角に当てはまる用語を埋めつつ、公的年金には3つの種類があることを説明する。



- 「年金」というと「老齢年金」がイメージされ、高齢者のものとイメージされがちだが、実際にはあらゆるリスクに対応しており、全世代の安心のための制度である。
- 公的年金保険は、予測できない将来のリスクに備えるもの。
- 公的年金保険には、「老齢になった」「障害を負った」「一家の大黒柱が亡くなった」という予測できない３つのリスクに対応するため、「老齢年金」「障害年金」「遺族年金」が用意されている。

2.公的年金保険について考えてみよう
(1)公的年金保険の意義

【副教材P11-12】

✓ 選択する人生の在り方に応じて加入する年金が異なることを説明する。

年金制度の設計の考え方

○ 日本の年金は、3階建ての構造。1・2階部分の公的年金が国民の老後生活の基本を支え、3階部分の企業年金・個人年金と合わせて老後生活の多様な希望・ニーズに対応。

私的年金

老後生活の多様な希望やニーズに応える役割

3階：企業年金・個人年金（iDeCo）

公的年金

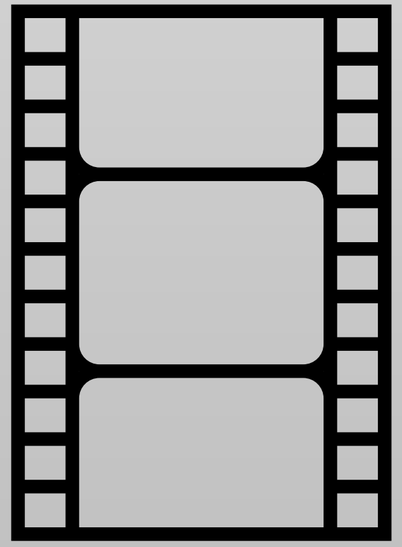
老後生活の基本を支える役割

2階：厚生年金（報酬比例年金、男子平均報酬40年加入で月90,346円（2021年度））
サラリーマンを対象とした現役時代の収入額に応じた給付

1階：基礎年金（月額65,075円（2021年度））
全国民共通の給付

モデル年金（夫婦の基礎年金＋報酬比例年金）で1,2階合わせて現役期の手取り収入の50%を確保（現在は60%強）

※ モデル年金 ‥ 65,075×2＋90,346＝220,496円



【特に注目してほしいポイント】

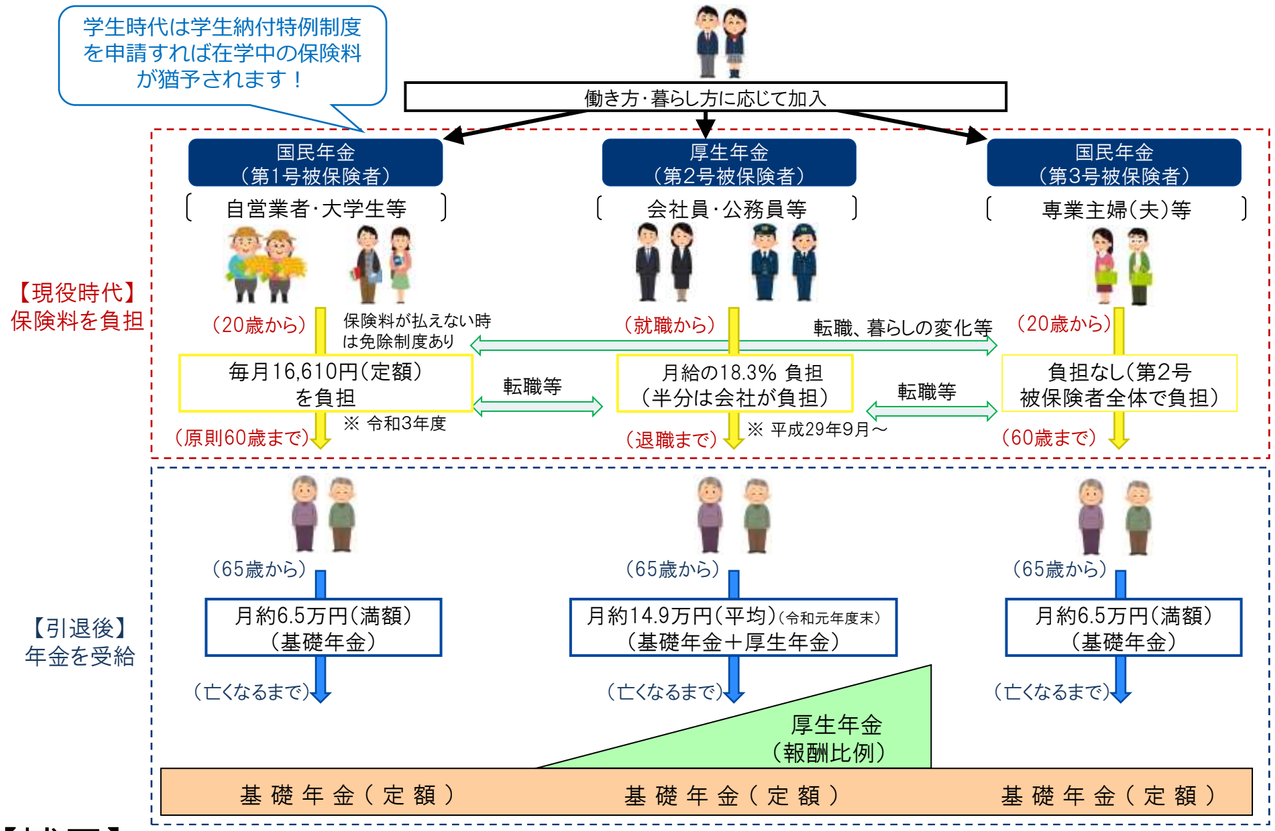
- 日本の年金制度は３階構造であり、働き方・暮らし方によって加入する年金が異なる。
- 転職や退職等によって立場が変わった場合には、加入する年金が変わることがある。

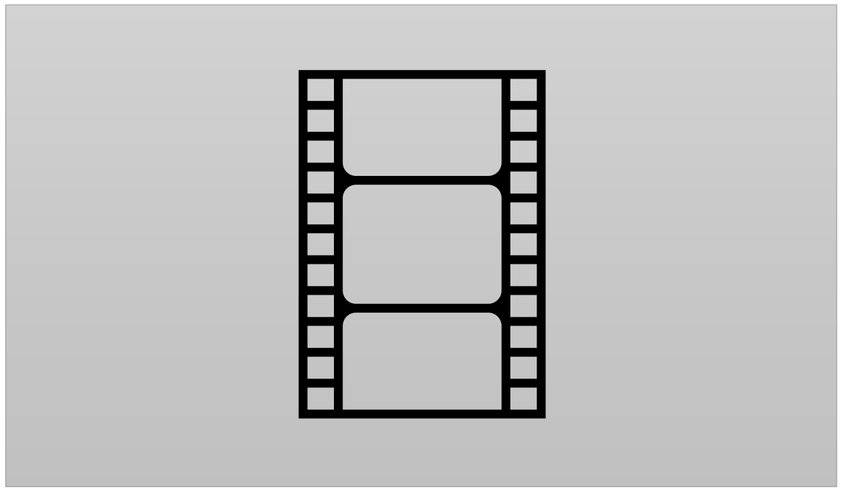
2.公的年金保険について考えてみよう
(1)公的年金保険の意義

【副教材P11-12】

✓ 選択する人生の在り方に応じて加入する年金が異なることを説明する。

公的年金保険とライフコース





【補足】

- 年金保険の場合は、保険料を払った年数、払った額に応じて受け取る年金額が決まる。

【特に注目してほしいポイント】

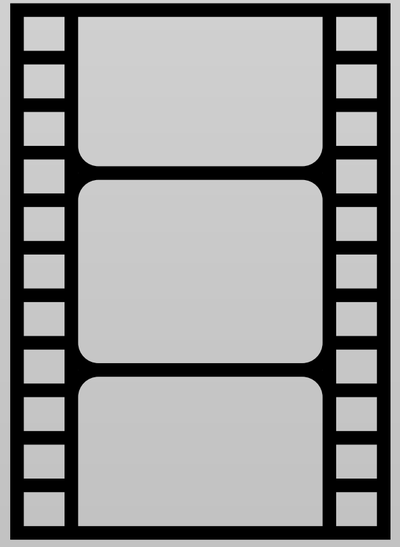
- 高齢期には、国民年金のみに加入していた場合には基礎年金のみ、厚生年金に加入していた時期がある場合には基礎年金に加えて厚生年金を受け取ることになる。
- （卒後就職予定の生徒向け）20歳以前から会社員や公務員として就職している場合には、就職時から厚生年金に加入することになる。
- （卒後進学予定の生徒向け）申請することで在学中の保険料が猶予される学生納付特例制度がある。申請せずに保険料を支払わないと、20歳以上で障害を負った場合に障害年金を受け取ることができない等の不利益がある。なお、10年以内に猶予した分の保険料を支払わないと、将来の年金額が少なくなる。

2.公的年金保険について考えてみよう
(1)公的年金保険の意義

【ワーク4】

✓ 自分は20歳になったらどの年金に入っているか、考えてみよう。

✓ 副教材p.12「公的年金保険とライフコース」を見ながら、自分の人生設計を踏まえると20歳になったらどの年金に加入していることになることになるのか考える。



【ワーク4に対するヒント】

- 記入した回答や、その後の自分の人生設計（大学等卒業後の進路等）を踏まえて、高齢期に受けとる年金が基礎年金だけなのか、厚生年金も受けとることができるのか等について併せて考えさせてもよい。

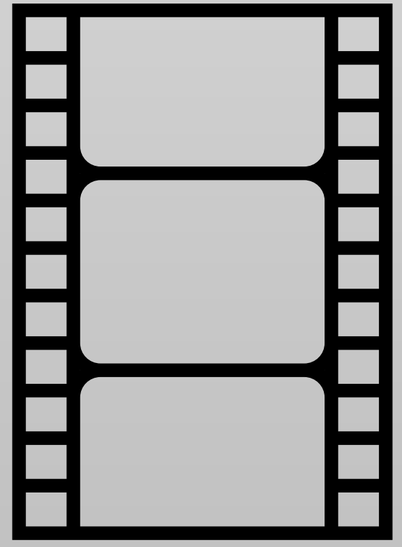
【生徒からの意見（例）】

- 働き始めるので、厚生年金に入ると思うが、仕事を辞めてバイトに戻るかもしれない。
  →立場が変わると入る年金が変わっていくことを伝える。

2.公的年金保険について考えてみよう
(2)公的年金保険の仕組みと必要性

【クイズ2】

✓ 1問ずつ、クラス全体に問いかけ、解説する。



【クイズ1】

1問目　今から50年前のうどん１杯の値段は今と比べてどうだったでしょうか。

①今と変わらない　②高かった　③安かった

※小売物価統計調査によると、うどん１杯の値段は
　1965年が53.7円で、2020年が677円と12.6倍になっている。

2問目　今から50年後の物価はどうなっているでしょうか。

①変わらない　②上がっている　③下がっている　④分からない

3問目：今から50年後にもらえる年金額はどうなっているでしょうか。

①変わらない　②上がっている　③下がっている

④基本的には今後の物価や賃金によるため分からない。

2.公的年金保険について考えてみよう
(2)公的年金保険の仕組みと必要性

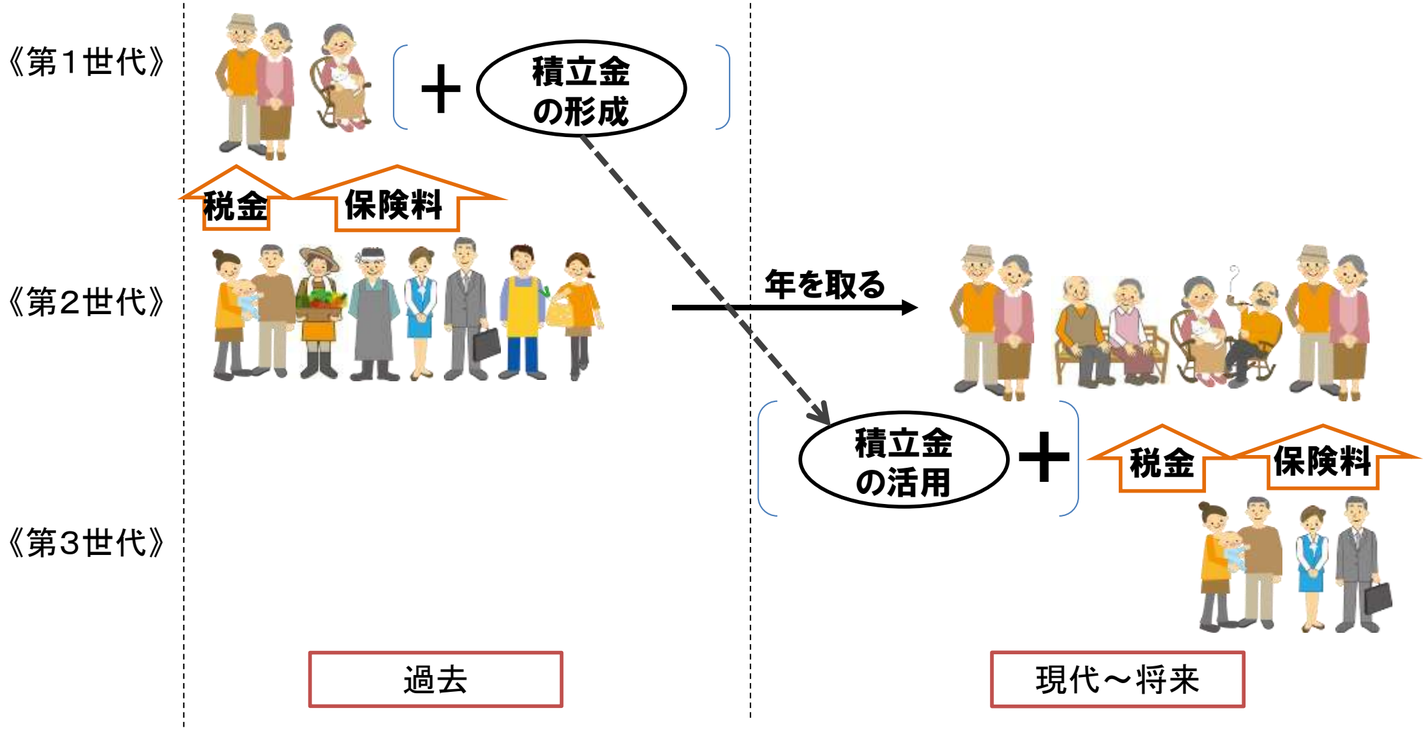
【副教材　P13】

✓ 日本の公的年金保険が仕送りを社会化したものであることを説明する。

公的年金保険は、「仕送り」を社会化したもの

○ 日本を含め先進各国の公的年金保険は、いずれも、現役世代が納めた保険料をその時々の高齢者の年金給付に充てる仕組み （＝賦課方式）を基本とした財政方式となっている。

○ なお、我が国においては、将来の高齢化の進展に備え相当程度の積立金を保有し、その活用により、将来世代の保険料水準が高くなりすぎないよう配慮している。



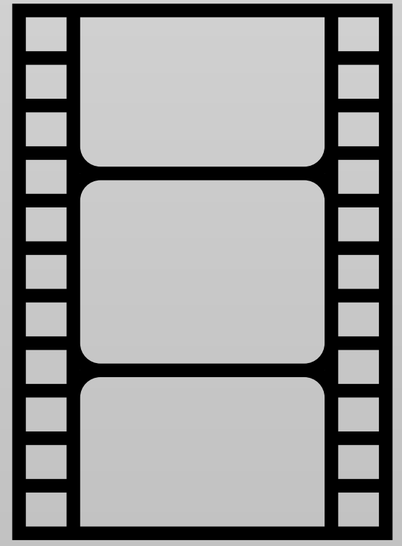
【特に注目してほしいポイント】

- 公的年金保険は20歳以上60歳未満の国民が支払った保険料などを原資として、高齢者をはじめとしたリスクに直面した方への給付に充てられている。

2.公的年金保険について考えてみよう
(2)公的年金保険の仕組みと必要性

【ワーク5】

✓ ワーク5の四角に当てはまる用語を埋めつつ、2つの財政方式の違いと日本の公的年金保険が選択している財政方式を説明する。



【特に注目してほしいポイント】

- 物価変動のリスクや長生きのリスクに対応するため、公的年金保険は積立方式ではなく賦課方式が適当。
- 賦課方式を採用することで、個人の貯蓄では対応することが困難な物価変動のリスクにも対応。
- ただし、年金給付の財源が現役世代（概ね20歳以上60歳未満）からの保険料が主なものとなる賦課方式については、このまま少子高齢化が進み、年金の給付に必要な額を現役世代からの保険料収入だけでは賄えなくなる可能性がある。
- そこで、現在の日本の公的年金保険では、一定の「年金積立金」を保有し、それを活用することで少子高齢化の影響を軽減するという、賦課方式のデメリットを積立方式で補う方式を採用している。

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

2時間目
2.公的年金保険について考えてみよう

学習活動：ワーク6～8

副教材対応ページ：P15～18

2021年4月1日

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

2.公的年金保険について考えてみよう
(3)少子高齢社会における公的年金保険

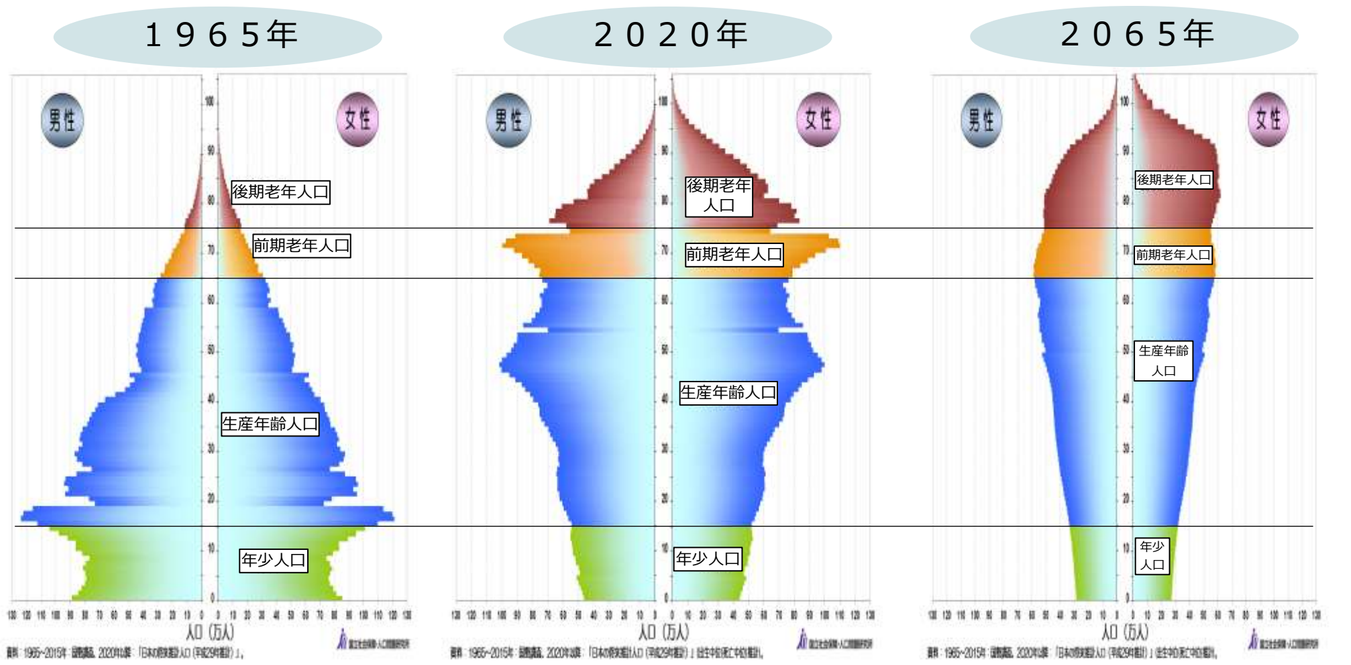
【ワーク6】

✓ 少子高齢社会が公的年金保険に与える影響について考えてみよう。

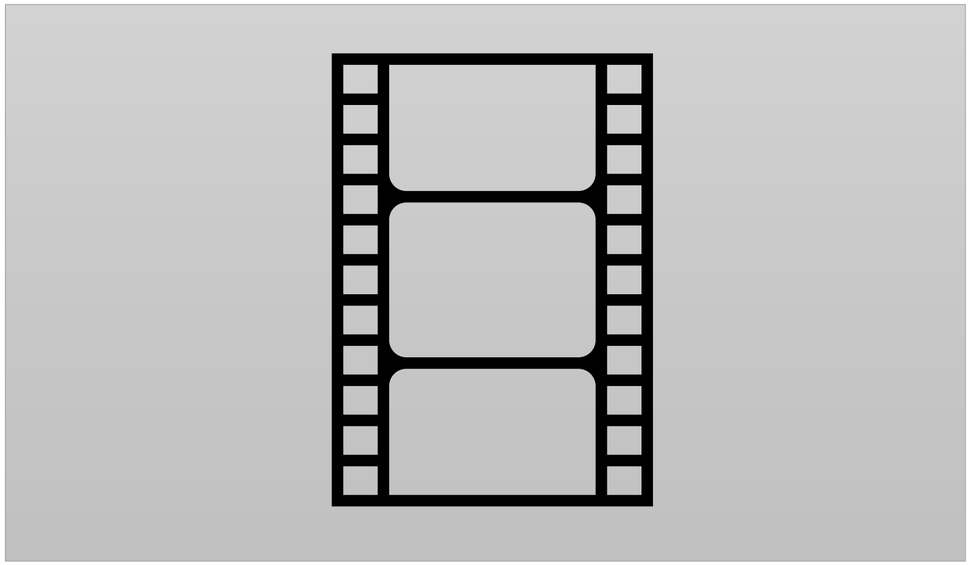
【副教材　P15】

✓ 人口ピラミッドの推移を見て、気づいたことを発表する。

人口ピラミッドの推移



出典：国立社会保障・人口問題研究所ホームページ　（http://www.ipss.go.jp/）



【ポイント】

- 生産年齢人口に着目するとどうかなど、ヒントを出しながら聞いていく。

【生徒からの意見（例）】

- 生産年齢人口と年少人口が減少しているから、若い人の負担が増える。
- 働く人が少なくなることによって、納税者が減少する。

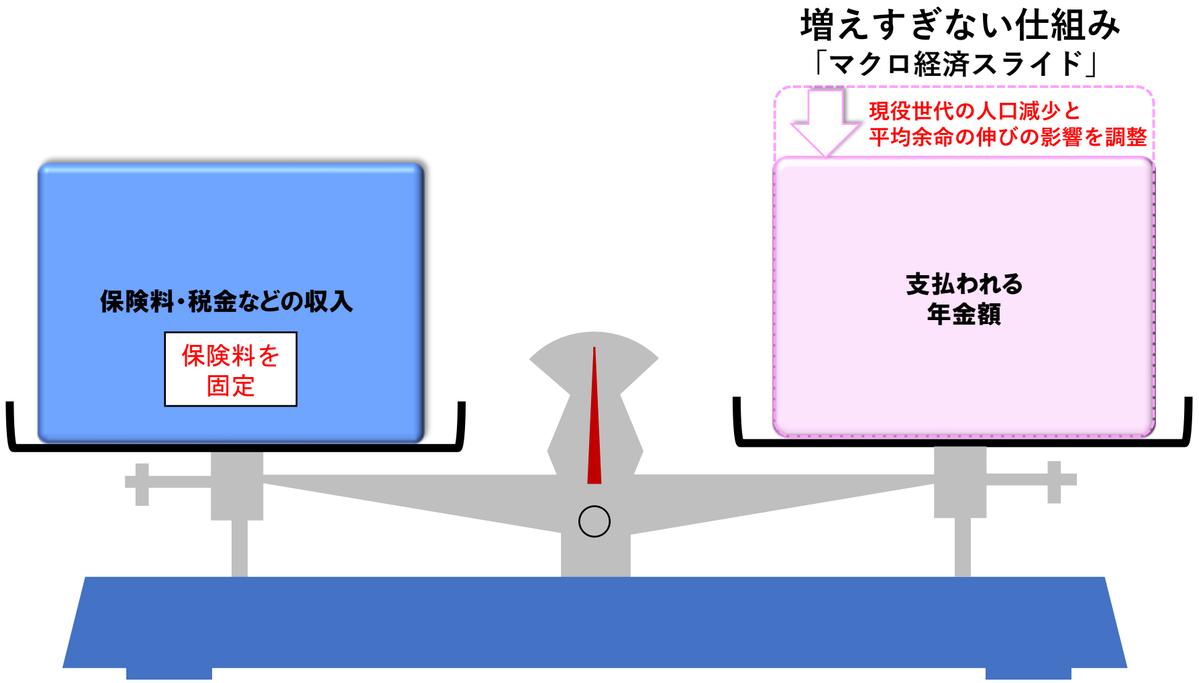
2.公的年金保険について考えてみよう
(3)少子高齢社会における公的年金保険

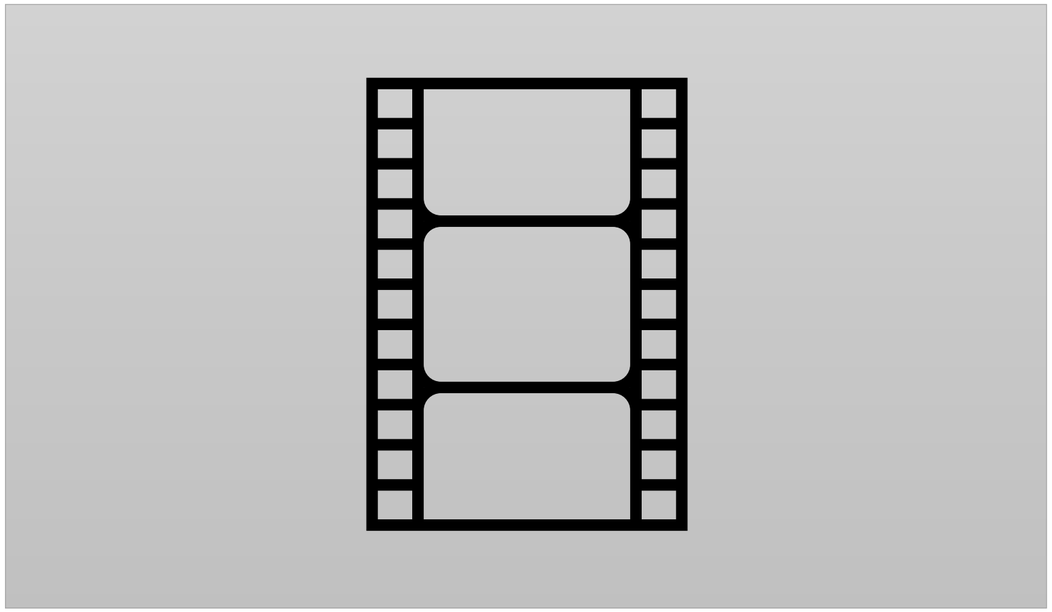
【副教材　P16】

✓ 少子高齢社会に公的年金保険はどのように対応しているか確認する。

現在の公的年金保険について

公的年金保険は、現役世代が支払う保険料をその時代の年金給付に充てています。
そのため、
・支払われる年金額が**増えすぎないよう、自動調整する仕組み**が組み込まれ、
・それを賄うための保険料は、**負担に上限が設定**されるなど、
将来にわたって安定した制度設計になるようにしています。





【ポイント】

- 少子高齢化に対応するため、年金財政は、保険料負担の上限を固定した上で、積立金の運用収入や取り崩しを行い、マクロ経済スライドによる年金額の給付水準の調整により、持続可能な仕組みとなっている。

2.公的年金保険について考えてみよう
(4)人生100年時代のリスク　①高齢期の生活にどう備えるか

【副教材　P17】

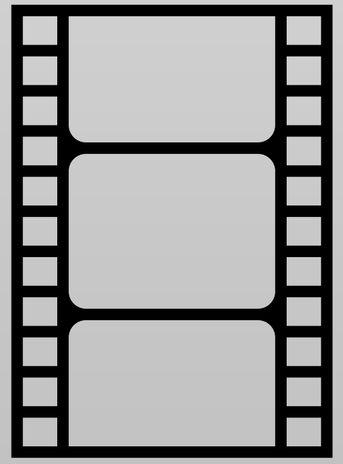
✓ 今や「人生100年時代」と言われているように、今の高校生が高齢者になる頃には、平均寿命が男性で約85歳、女性で約91歳になると推計されている。

平均寿命の推移と将来推計

資料：1950年は厚生労働省「簡易生命表」、1960年から2015年までは厚生労働省「完全生命表」、2018年は厚生労働省「簡易生命表」、2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

（注）1970年以前は沖縄県を除く値である。0歳の平均余命が「平均寿命」である。

（出典）内閣府「令和２年版高齢社会白書」



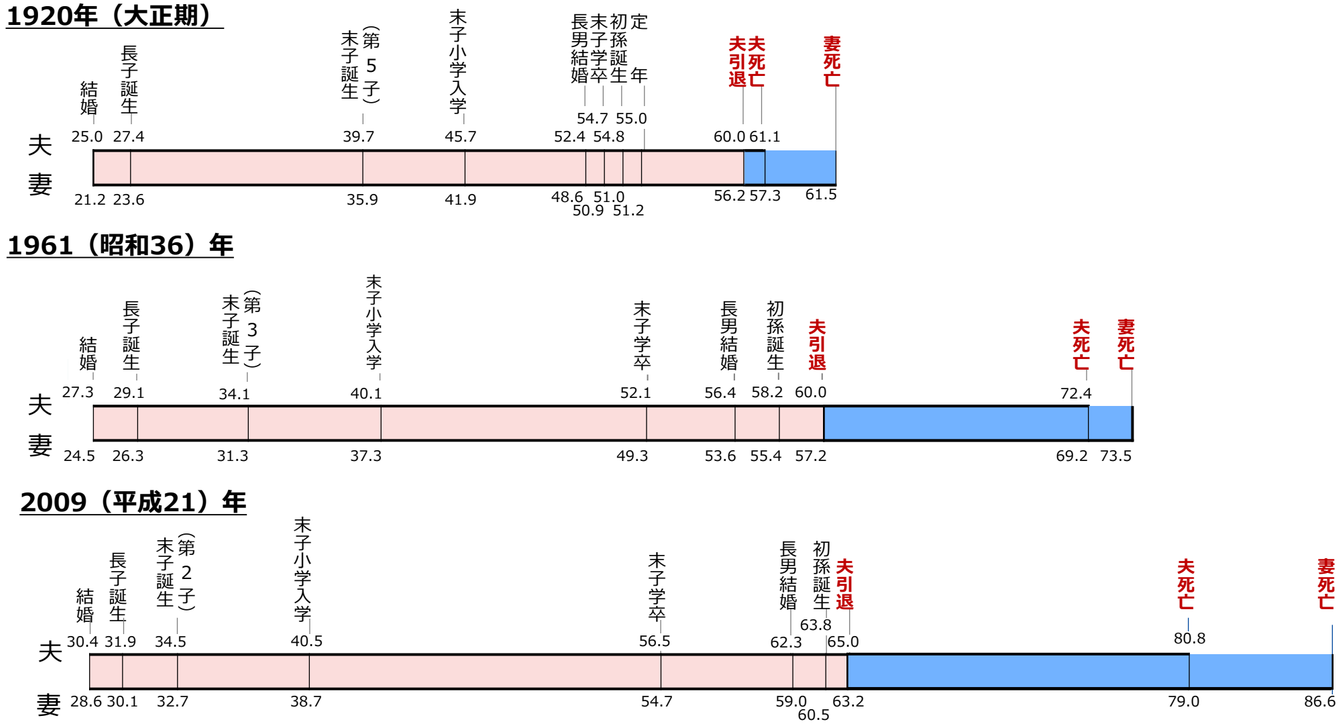
2.公的年金保険について考えてみよう
(4)人生100年時代のリスク　①高齢期の生活にどう備えるか

【副教材　P18】

✓ 平均寿命の延伸により、「高齢期」はどんどん長くなっている。

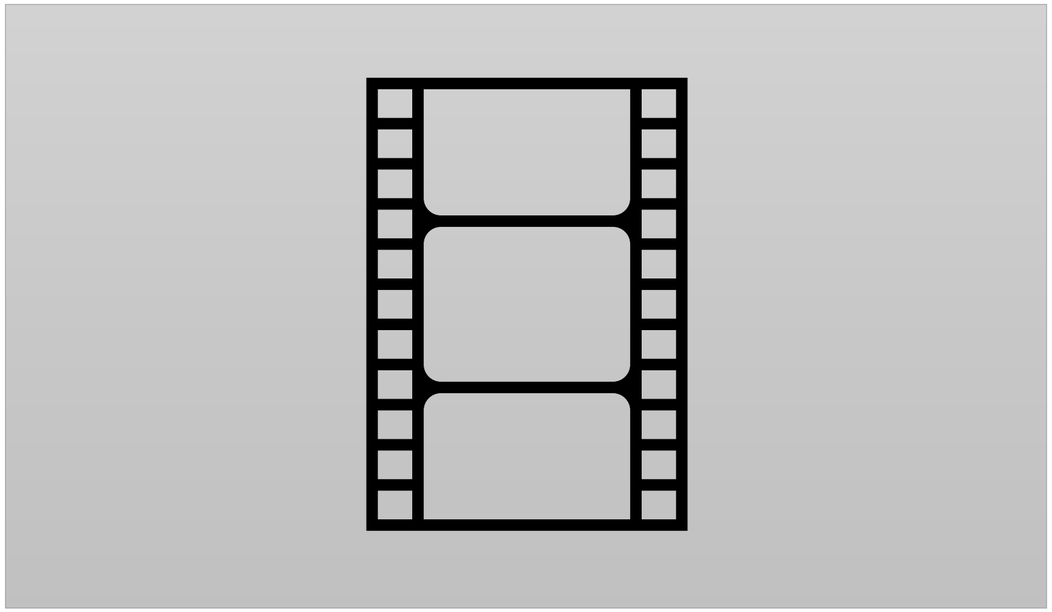
統計で見た平均的なライフサイクル

子供の数は減少する一方、平均寿命の延伸により**引退後の期間が長くなっている**。



（資料出所）厚生労働省「平成23年版厚生労働白書」（1920年は厚生省「昭和59年厚生白書」、1961年、2009年は厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」等より厚生労働省政策統括官付政策評価官室において作成。）

（注）価値観の多様化により、人生の選択肢も多くなってきており、統計でみた平均的なライフスタイルに合致しない場合が多くなっていることに留意する必要がある。



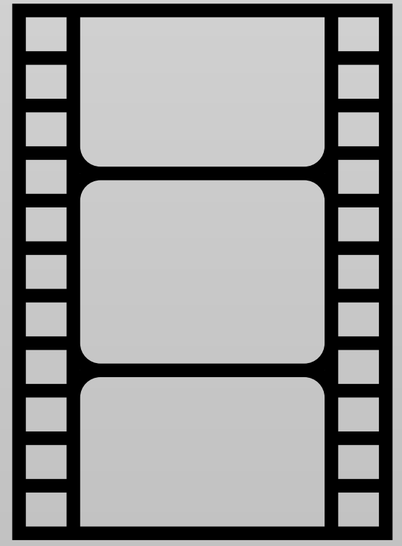
2.公的年金保険について考えてみよう
(4)人生100年時代のリスク　②老齢年金の役割

【ワーク7】

✓ 人生100年時代といわれるなかで、誰もが長生きする可能性があります。高齢期はどのように暮らしたいか考えてみよう。

【ワーク8】

✓ あなたがイメージした高齢期の生活費はどのように賄っていけばよいか考えてみよう。



- 副教材P17及び18を参考に、何歳までどのように働きたいか、仕事以外の生活はどうしたいか、仕事を辞めた後はどうしたいか等について考える。
- 老後の生活費の賄い方にどのような方法があるかグループで議論する。

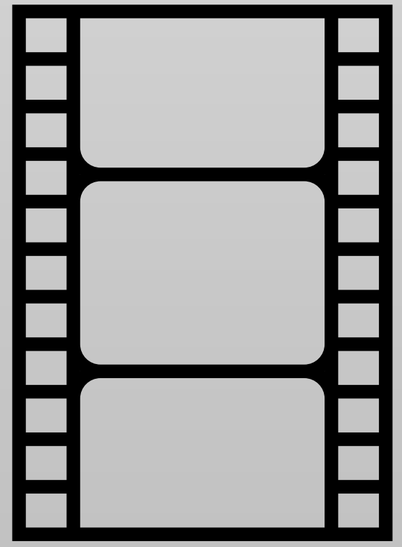
【ワーク7及び8に対するヒント】

- 議論の参考として、繰下げ受給や私的年金（企業年金、iDeCo等）などの活用について説明してもよい。

2.公的年金保険について考えてみよう
(4)人生100年時代のリスク　②老齢年金の役割

【ワーク9】

✓ 少子高齢化が進むなかで、みんなが長生きに伴うリスクに備えるためにはどうすればよいか考えてみよう。次のＡとＢの考え方のどちらがよいか、その理由や具体的な対応方法も含めて考えてみよう。
Ａ：みんなで税金や社会保険料を支払うことで政府が中心に対応するべき。
Ｂ：税金や社会保険料を支払うのではなく、家族の間で助けあったり個人で努力したりするなど、家族や個人が中心に対応するべき。



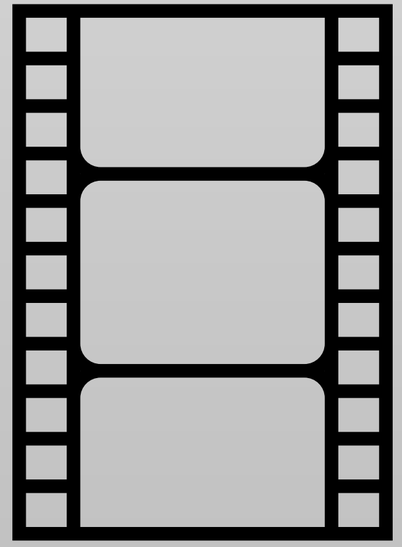
- 「長生きに伴うリスク」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず経済的に困る可能性があることを補足する。
- 少子高齢化が進んでいることを踏まえ、今後もみんなで長生きに伴うリスクに備える方法について、またそのように考える理由も含めて議論する。

【ワーク9に対するヒント】
- Ａ、Ｂ以外の第三の考え方について議論してもよい旨を補足してもよい。
- 政府が中心に対応する場合はその対応に必要な税金や社会保険料をみんなで確実に支払う必要があること、家族や個人が中心に対応する場合は想定外に長生きしてしまうと家族や個人では対応しきれない場合もありうることについて補足してもよい。

まとめ

✓ この単元で学んだことを確認させ、この単元の内容を多面的・多角的に学ぶ意義を強調する。

- 自身のライフプランの設計において、老齢年金が活用可能であること。
- 公的年金保険を維持するためには、公的年金保険の意義や仕組みを理解し、少子高齢社会における公的年金保険の課題について考える必要があること。



Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

おわりに

2021年4月1日

ひと、くらし、みらいのために
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

編集協力

【編集協力者　一覧】（敬称略）

神奈川大学特任准教授 （元神奈川県立海老名高等学校教諭）	梶ヶ谷　穣
神奈川県立三浦初声高等学校総括教諭	金子　幹夫
神奈川県立瀬谷西高等学校教諭	黒崎　洋介
千葉県立津田沼高等学校教諭	杉田　孝之
東京都立戸山高等学校主幹教諭	髙橋　朝子
東京都立農業高等学校主任教諭	塙　枝里子

【授業実施者】

東京都立農業高等学校主任教諭	塙　枝里子

授業実施者からのコメント

　年金保険は高齢者の問題ではなく、自分の問題でもあることに気づかせるのは容易ではない。本モデル授業は、１時間目でクイズを交え年金保険の基礎的事項を学ぶことで、全世代に関わる問題であることに気付き、2時間目で少子高齢社会における長生きに伴うリスクを社会全体の問題として考察する構成になっている。高齢世代への給付に疑問を感じていた生徒が少子高齢化の話題を安易な世代間対立に終わらせず、「いずれは高齢者となる自分」を想起し、年金保険を「自分ごと」として考えていた姿が印象的であった。「正解のない問い」を考える良い教材となっているので、ぜひ、チャレンジしてほしい。